

## NEWS RELEASE (2023年8月1日) 告知依頼

『8・6の雨音―「8・6水害」についての55人のインタビュー』を公開しました  
鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。次について、告知方お願いいたします。

**【趣旨等】** 法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターは、1993年8月6日の「8・6水害」についてのインタビュー集『8・6の雨音―「8・6水害」についての55人のインタビュー』を公開しました。本インタビューはセンターの日高優介特任助教によって、共通教育科目「地域コミュニティ論」の受講生と共に制作されました。50件のインタビューでは貴重な災害当時の様子が語られています。まもなく、「8・6水害」から30年が経過します。災害の記憶を伝える本プロジェクトについて、広く市民の皆様にお伝えすることを希望します。また、同インタビュー集は今後紙媒体でも刊行される予定がございます。

**【日時】** 公開中

**【場所】** 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター web サイト

<https://kadai-kingendai.jp/information/230727-01/>

**【対象】**

鹿児島県民

**【内容】**

はじめに

「もうほんの少しのことで、命が、危なかった」

「バスに乗ってたら、帰れなかったかもね」

「出るのが遅れてたら」

「自分で考えなさいよっちゅうこと」

「変な予感」

「今だからこうやって話せるけど……」

「道路で鯉が飛び跳ねた！」

「土砂を乗り越えて帰った記憶」

「見てる前で橋がね、半分ドーンと落ちたんですよ」

「水が溢れてるところをバスが通る」

「水がわんさかと押し寄せて」

「1メートル先も見えない」

「くるぶしまで靴は完全に浸かっている」

「天災は、恐ろしい」

「もうどうすることもできない」

「自然には勝てないと思う」

「経験しないと分かんないですよ」

---

「列車が宙ぶらりんになっていた」  
「未曾有の災害」  
「大きなトラックが流れてきた！」  
「どうなるのかな」  
「車がもう水にかなり浸かっている状態」  
「近くにいる人たちでみんなで手をつないで」  
「木造の3階建てを提案したの」  
「水はあつという間」  
「子供たちが遊びに行ったまま連絡がつかない」  
「JRに乗ってて亡くなった」  
「人がこうだから安全と思ってはいけない」  
「雨が降っただけで断水するのっていうような意外な感じは、はい」  
「自然の恐怖感」  
「台風なんて甘っちょろい」  
「道路が至る所泥だらけでぐちゃぐちゃ」  
「道路がとにかく使えない」  
「すごい怖い」  
「危機一髪」  
「関心を持ってもらうことが、大事じゃないかな」  
「高校一年生の時の経験」  
「道路脇から水がどんどん落ちてきて」  
「橋も流された」  
「家にいてよかった」  
「線路伝いに歩いて」  
「家族と過ごした30年前の8月6日」  
「高いところに逃げる」  
「二次災害になったらいけない」  
「8・6災害からの復旧に向けて」  
「自然の力は凄い……」  
「行政はなかなか来なくて」  
「台所に鯉」  
「家に帰ることができない」  
「怖かったよね、考えたら」

### 【注意事項】

PDF形式にて配布。

今後、紙媒体でも刊行される予定。

---

### 【問い合わせ先】

鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30

鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟 3F

TEL:099-285-7532 FAX:099-285-7625 E-MAIL:kingendaijim@leh.kagoshima-u.ac.jp